

穂学

平成31年度

広州日本人学校学校便り

[No. 2]

令和元年5月8日(水)

発行責任者 教頭 渡邊美佐子

「話し合い」で築く心の絆

校長 喜屋武 浩司

始業式、入学式から一ヶ月が過ぎようとしています。児童生徒は入学・進級したそれぞれの学年・学級で楽しそうに学校生活を送っており、学校中が子どもたちの明るい声で満たされています。

そのような中、去る4月26日(金)に小学部3年生校外学習で学校周辺を見学しました。校外学習は、社会科の授業で学習したことを体験を通して学ぶ機会として非常に大切な学習であります。集団で行動することや社会マナーを学ぶ場としての位置づけもあります。3年生児童が仲良く手をつないで横断歩道を渡る様子や、自分が発見したことを話してくれる様子は大変微笑ましく感じました。科学大道を中心とした学校周辺は、様々な研究施設や大学などの学術関連施設が多く、また都心と違い自然が豊かで、道ばたに生えている草花や虫など、普段気がつかないことを新たに発見する楽しみもありました。学習面以外でも、子どもたちには自分が住んでいる町や地域に愛着を感じ、安心して過ごせることに感謝の気持ちを持ってくれたらと思いました。

さて、各家庭にお知らせをお配りしましたが、五月一日に天皇陛下が即位され、新元号「令和」がスタートしました。この言葉に込められた「一人一人の日本人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる日本になってほしい」という願いがとても素敵に感じました。広州日本人学校の子どもたちも、日々の学校生活などで友達と仲良くし、これからの平和な日本を築く人材に育ててほしいと願うばかりです。

四月のスタートにあたって、元文部科学省視学官、杉田洋先生の講話で紹介いただいた「話し合いの十箇条」という学級活動や授業などで大切にしてほしいことを先生方に伝えました。今後の「穂学」でも何回かに分けて紹介したいと思えます。キャリア教育で大切にしたい「人間関係形成能力」と言えますが、社会に出た時に、日本人のみならず世界の人々と話し合うことの大切さを共有し、住みよい地域、住みよい社会、そして平和な世界を築いてほしいと願います。今回はその中から2つ紹介します。

- 1 友達の話を聞くときは何を言いたいのか分かって最後まで聞きましょう
聞くことは心をつなぐことです。

2 言いたいことを、みんなが聞こえる声で、みんなが分かるように伝えよう。みんなに伝わる声や話し方を意識することは、思いやりの第一歩です。

いかがでしょうか。「聞くことは心をつなぐこと」「思いやりの第一歩」など、子どもたちの心の教育として大切にしていきたいことが綴られています。ぜひご家庭でも話題にさせていただけるとうれしく思います。

五月に入り、子どもたちは運動会に向けリレーや学年競技、応援練習などに日々頑張っています。今から本番が待ち遠しくてなりません。保護者の皆様の応援よろしくお祈りします。

小一・中一を迎える会

4月17日中一を迎える会、4月19日小一を迎える会が行われました。中学部では、中二、中三全員で、森山直太朗の「さくら」を合唱しました。その後、中二が深圳宿泊学習などについてプレゼンテーションを行い、中三は、中学部で毎年踊っている運動会でのカンフーを披露。部活動紹介では、一年生を勧誘していました。



小学部は、4年生が体育館の飾り付けを担当。3年生が花道を作り、6年生に手を引かれながら、緊張した面持ちで入場した1年生。まず、2年生から6年生までの全児童が、1年生へのプレゼントとして、「茉莉花」の歌を合唱。中国語の歌詞と美しいメロディーが体育館いっぱいに響きわたりました。2年生は、一年間の学校行事を紹介し、手作りのメダルを進呈。1年生は、「1年生になったら」の歌を元気いっぱいに歌い、最後は全校児童で、ゲームをして盛り上がりました。みんなの笑顔が印象に残る、素敵な歓迎会でした。

